

Rihoの ドイツ便り

No.61

2000ワット社会をめざそう

現在、一人あたり西欧では6000ワット、アメリカでは12000ワットでエネルギー消費している。発展途上国では数百ワットと、格差が激しい。消費エネルギーの増加、増えゆく人口、それともない排出されるCO2も増えている。環境に負荷をかけず、かつ世界の人々が公平に限りあるエネルギーを利用できるようにというのが、1997年にスイスの技術大学で生まれた「2000ワット社会」の概念である。これは家庭での消費だけでなく、社会全体の消費すなわちインフラなども含めている。

6000ワットというと、一人当たりの年間のエネルギー消費量は5万キロワット/時(6000ワット×24時間×365日)となり、5000リットル分の石油に相当する。使用エネルギーを3分の1にするとともに、化石燃料ではなく再生

可能エネルギーを活用することで、二酸化炭素の排出をひとりあたり1トンに抑えることを目標としている。政治的、経済的環境が整えば、今の技術で実現可能だという。今では現在ではスイスをはじめ、フランスやドイツなどやく500の都市がこのプロジェクトに参加している。

使用エネルギーは住居、移動、食料、消費の分野に分けて考えることができる。例えば一次エネルギーの半分は冷暖房に使われているため、壁に断熱を施したりパッシブハウスに住むことで、生活の質を落とさずに省エネできる。また移動によりCO2の排出の約3分の1が排出されており、マイカーはやめて、列車やバス、カーシェアリングを利用すると大幅に下がる。飛行機は短距離だと1Km当たり車の倍、列車の5倍のエネルギーがかかる。長距離だと車より少なくなるが、家族4人でドイツからオーストラリアに飛んだ場合、断熱のよい住居で一家が30年住むのと同じエネルギー消費となる。

ドイツ人が日本に行くと、夜の明るさに驚く。店ではこうこうと照明がつき、絶えず宣伝放送が流れている。ひとりひとりの心がけでエネルギーの消費量はかなり減らすことができる。意識をどう変えるかが課題である。

参照：スイスのチューリヒ市の「2000ワット社会」のサイト(ドイツ語のみ) <http://www.stadt-zuerich.ch/2000watt>

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツで子育て♪



最近、周りのお友達が誕生日続きです。4歳ともなると誕生日が何かわかってきて、誕生日会に招待したりされたり。先日のルイスくんの誕生日には、明は「何をあげようかな」と自分のおもちゃを見て真剣に悩んでいました(結局、服を買ってプレゼント)。来週はザラちゃんの誕生日で、お姫様パーティです。男の子は王子様かカエルの衣装でという希望ですが、どうしよう。インディアンの服があるので、強引にインディアンの王子様か…。でも明が納得して着るかしたら、なかなか難しい年頃です。